

柿 生 文 化

柿生郷土史料館 情報・研究誌

住所：川崎市麻生区上麻生 6-40-1

柿生中学校内

電話：070-1503-6401/044-988-0004

<http://web-asao.jp/hp2/k-kyoudo>

第 186 号

白井義胤翁
を訪ねて 8

身近な周囲への目配り

小林 基男 (柿生郷土史料館専門委員)

鏑木家の再建と『墨光遺寶』の出版

東京瓦斯株式会社の増資株式や端株の割り当ては、5 人の委員に任されました。2 年連続で株式総会に提案され、満場一致の形で議決されています。渋沢公の日記が残っているのですが、明治 40 年と 41 年 (1907 年と 08 年) 7 月 29 日の株主総会当日の日記に、渋沢公自身が、この事実を書き留めているのです。株主総会の議場は、東京商業会議所の大ホール、国策に沿う大企業の株主総会です。出席者の大半は、貴賓や大企業の重役など、財界の大物たちです。ここに義胤翁は大物実業家の一人として認知されたのです。63 歳の義胤翁にとって、遂にここまで来たかと格別の感懐があったことでしょう。まさに資産家の一員として世に認められたのです。

義胤翁が教育事業、若者の育成に惜しみなく資産を提供し続けたことが、彼の財界人としての地位確立という大きな成果につながったのです。翁は自らが美術家の道を歩むための学業を続けられなかったことを他山の石に、長男泰胤さん以下の子供たちに、学びの機会は十分に付与することを忘れませんでした。そして、家庭の事業で進学を諦めざるを得ない若者たちのために、奨学金を付与するための奨学基金原資も提供したのです。義胤翁の子息は、本妻の子であるかないかを問わず、子どもたち全員が希望する限り、勉学を続けることが許されたのです。本妻以外の子どもたちも、麻布笄町の広大なお屋敷内で母と共に暮らし、結婚後は一家を構えて独立したのです。第二夫人なみ女を母とする次男の公胤さんは、須崎延太郎氏の長女八重女と結婚、下麻生の白井家の旧本宅を譲り受け、生活の拠点にしたようです。本妻の次男で明治 28 年 (1895 年) 生まれの直胤さんは、義胤翁が東京瓦斯株式会社の株主総会で脚光浴び、達成感に浸っていた時期に旧制中学に入学し、第一次世界大戦の特需景気に沸く時期に、三菱財閥系の大企業三菱鋼材に職を得、エリート会社員として歩み始めます。

一方で義胤翁は、糟糠の妻やす女の実家、鏑木家の危機を救うべく、娘の美智子さん (明治 25 年 -1992 年 - 生) を鏑木家の養女とし、千葉一族の適齢期の男性を婿に迎えて安泰を図ろうとしたのです。しかし目的を達せず美智子さんが亡くなったため、孫の常子さん (故長男泰胤さんの長女、明治 32 年 -1899 年生) を再度養女として鏑木家の家督を継がせ、さらに泰胤さんの三男弘胤さん (大正 2 年 -1913 年 - 生) を常子さんの養子として鏑木弘胤を名乗らせ、鏑木家消滅の危機を救ったのです。義胤翁は、白井家だけでなく、千葉一族の諸家の状況にまで目配りする度量の広さも持ち合わせていたのです。

大正 4 年 (1915 年) の話になりますが、義胤翁は市川三陽氏に肩入れして、同氏が編纂した『墨光遺寶』を上質の和綴じ本として出版すべく、自らの名を冠した出版社白井義胤を設立しています。出来上がった上下 2 冊本『墨光遺寶』の奥付には、確かに出版社白井義胤とあり、大正 4 年の刊行が明記されています。国立国会図書館がこの書物を保存し、デジタル版も作成して利用者の便を図っています。また古書市場を検索すると、現在でも同書は数軒の古書店が手持ちしており、流通市場で入手することが可能です。一方で、義胤翁が設立した出版社 <白井義胤社> が『墨光遺寶』以外の書物を出版した記録はどこにも記載されていません。白井義胤社は、義胤翁が知人の市川三陽氏が苦心して編集した書物を出版するために設立し、出版後すぐに解散してしまったようです。義胤翁が自己資金で設立し、残された負債もすべて負担されたのでしょうか。他方市川三陽なる人物については、どのような人物なのか、他にも著作があるのかなど、人物探索の手掛かりになりそうな



和綴じ本『墨光遺寶』

痕跡は、何も残されていません。おそらく義胤翁が画家を志した若かりし日に大変お世話になった大恩ある人物だったのでしょう。義胤翁は恩義ある人物を忘れず、いつかはその恩に報いたいという姿勢を終生貫かれた人だったので、『墨光遺寶』出版の一件からも、彼の姿勢を伺い知ることが出来るように思うのです。 (続く)

シリーズ
麻生区の地名 その 11

黒川の地名

菊地恒雄(日本地名研究所 研究員)

黒川は麻生区の最西端に位置し、都筑郡にありながら三沢川を通して多摩川水系に注ぐという、複雑な位置関係にあります。そもそも黒川の地名由来にこれといった説得力のある説明ができません。色としての黒も川の色が黒いわけでもなく、川底の岩盤も特に黒くはないのです。クロに田の畔を意味する場合があります。田の単位としてクロが使われたとも考えられますが、黒川地区が特に田圃の面積が広いわけでもなく、むしろ谷戸が数多くあり、谷戸田のことをクロと呼んだのかもしれませんが。全国には黒川や黒田などがあり、田に由来するという説が多くあります。それと同時に、土地の奥まったところとする説があるので、その事かなとも考えます。

黒川の初見は貞治 3 年(1305)の関東管領上杉憲春施行状に「武蔵国小山田庄内黒河郷半分事」を鎌倉の円覚寺塔中である黄梅院に与えるというもので、その後の至徳 4 年(1387)の「黄梅院文書」にも同様のことが書かれているので、小山田氏の所領の内、黒川の半分が、鎌倉にある黄梅院領であったことがわかりますが、どこを指すかはわかりません。

永禄 2 年(1559)の『小田原衆所領役帳』に「小山田庄黒川 9 貫 413 文 小山田弥三郎」とあるところから、後北条の時代にも、小山田氏の一族が収めていたことがわかります。

江戸時代に入ると旗本駒井氏の知行所として、江戸時代を通して収めています。その間に、黒川村は甲州街道の布田五宿の助郷役や享保 4 年(1719)以降幕府の御鷹場村に指定されるなど、農民の負担はかなり過酷であったと思われます。

明治初期の字がはっきりしており、江戸時代の小名や通称地名も多数記録されています。

宮添(みやぞえ)は鎮守汁守神社周辺の地域で黒川を中心部をいいます。村の高札場がありました。汁守神社付近を宮下、西光寺の前を寺ノ前、栗木境をばば尾根といい、その並びの斜面を日蔭や台地の裾を腰巻と呼びました。鶴川街道沿いには灯籠場があり、その付近を小名堀切と呼んでいます。黒川駅周辺は現在は南黒川と呼ばれ、マイコンシティ南黒川地区としてコンピュータなど最先端技術の集積された工業団地として整備されました。

現在の黒川駅周辺の南黒川の北側から稲城市坂浜方面は東(あずま)と呼ばれ、小名新井で字台とも呼ばれました。小高い丘があり向山と呼ばれましたが、開発によりその山はありません。一方東は農業振興地域として東営農団地として観光農園などに取り組んでいます。

谷ツ(やつ)と柳ノ町(やなぎのまち)は、はるひ野 1~5 丁目にあたります。小名のろうば(牢場谷戸)や柳ノ町で、ろう口、うまやの谷戸とも呼ばれています。多摩市との境の峰を横峯といい、府中から南に抜けるよこみね道が通っていました。その崖の斜面から湧水が湧き、池谷戸があり、現在は黒川よこみね特別緑地保全地区に指定されています。

海道(かいどう)は柳ノ町の西に位置し、街道とは関係ないといわれていますが、よこみね道に通じており、一概に関係ないとは言えないと考えます。一方垣内(かいと)の転訛で集落と従来は考えられていました。

西谷(にしや)は西に位置する谷戸のことで、小名すくも塚(丸山)や鷹ノ巣の伝承があり、鎌倉街道のはやの道(抜け道)があったともいいます。谷戸入口には金剛寺がありましたが廃寺となり、現在は毘沙門堂だけが残っています。

広町(ひろまち)は西谷の南に位置し、各谷戸からの水流が集まる所にあり、橋場と呼ばれました。その近くにはどんど焼きの行事を行う道祖神が祀られています。

明坪(みょうつぼ)は小名七ツ谷(ななつやと)と呼ばれ、複数の谷戸があったところの地名です。現在明治大学黒川農場があるなど、営農団地の新しい形態を発信しています。

黒川には講を単位とする上黒川・中黒川・下黒川と呼ぶ地区割があり、年中行事などの活動でその単位が現在も使われています。



『ふるさとは語る—柿生・岡上のあゆみ』
柿生郷土誌刊行会 資料より

シリーズ
歴史の中の女性像 3

その1 ナイチンゲールの世界 (3)

小林 基男 (柿生郷土史料館専門委員)

ケトレ統計学との出会い

1840年20歳のフローレンスは、何故数学を学びたいと言い出したのでしょうか？彼女の真意に迫るには、ちょっと時計の針を巻き戻して、1837年9月から39年4月まで1年半を越えるナイチンゲール家のフランス、イタリア、スイスをめぐる長い旅に触れなければなりません。この旅は、エンブリー荘の増築と全面的な改装のために家を空ける必要が生じたためでした。両親は、18歳と17歳になる2人の娘の夫となるに相応しい青年を見つけるために、エンブリー荘に名士たちや良家の子女たちを招待する広々としたサロンやパーティールームを設け、さらにいくつもの賓客用の寝室も設けることにしたのです。そのための工事は2年近くを要することが分かったのです。一家はフランスをめぐりながらイタリアに入り、両親の思い出の地を辿りながら楽しみ、スイスを回って、パリに落ち着くまでに1年を費やしました。大きな都市に入ると、フローレンスは父と共に書店巡りをすることが常でした。父の書棚にはない気に入った本、探していた本を買収したためでした。

パリに落ち着いた一家は、広いアパルトマンを借り切って半年ほど滞在することにしました。17世紀10年代に始まるパリのサロン文化は、フランス革命の混沌を経た後も復活を遂げ、中流階層をも巻き込んでなお隆盛を誇っていたのです。ナイチンゲール夫妻は、2人の娘を本国の社交界にデビューさせる前に、最も洗練されたフランスのサロンに旅行中の客人として参加させることで、社交のルールを学ばせようと考えたのです。母は超一流サロンの主催者への紹介状を携えていましたし、父はケンブリッジ大学出の秀才で、パリにも多くの学者仲間がいましたから、パリでの生活が落ち着くと、2人の姉妹はパリのサロンにデビューしたのです。母の紹介状で訪れたマリー・クラーク夫人は、ナイチンゲール家の一行を歓迎し、毎週金曜に開くサロンへ招待してくれたのです。政府の大臣、公爵や大司教などの賓客、高名な学者や作家などが集う知性に満ち溢れた会話の場です。父の薫陶をしっかりと受け、難解な本も読みこなしつつあったフローレンスは、大きな知的刺激を受け、大政治家や大学者たちと会話することに楽しみを見つけたのです。学者たちや政治家も、17歳の少女を可愛がり、入れ替わり立ち代わりで、彼女にいろいろな知識を注入してくれたのです。中でも後に英国の首相や国防大臣などを歴任するパーマストン卿は彼女を可愛がり、政治の機微や外交の初歩を惜しげもなく教えてくれたのです。当代一流の学者にも種々の質問を浴びせては、懇切丁寧な教えを受けたのです。余勢をかったフローレンスは、アダム・スミスとリカードの系譜に繋がる古典派経済学を集大成した経済学者で、哲学者としても知られるジョン・スチュワート・ミルにも何度も手紙を送っては、教えを受けています。2人の文通は、1860年代後半のミルの下院議員時代まで続きました。

フローレンスの才智が並でなかったことがよくわかるエピソードです。そんなフローレンスが収集した著作の中に、表題にも掲げたアドルフ・ケトレの著書がありました。1835年にケトレがパリで出版した『人間とその諸能力の発達について、または社会物理学についての随想』という長いタイトルのついた、彼の処女作です。この本は、発売後間もなく口コミで広まり、大ヒット作になりました。翌年には隣国ベルギーで、海賊版が出版されるほどの売れ行きを示したのです。ケトレはこの著作で、人間についての様々なデータを分析しています。彼は男女の出生率を分析し、女子1に対し男子は1.0638となることや、死亡率についても、寒冷地と温暖地、職業や所得の違いによる偏差など、種々ファクターを変えて分析したのです。そしてケトレは今では当たり前になっている平均という考え方を提唱したのです。ケトレは平均の考え方をを用いて、当時贈答用に人気の高かったライラックの開花予想も開示したのです。霜が降りなくなった日からの毎日の平均気温を計算して2乗したものを日々加えて、合計が4264になるとライラックは開花するとしたのです。その通りになることを実際に調べて納得したフローレンスは、ケトレの平均の考え方と、その基礎となる統計学にすっかり魅了されたのです。こうしてフローレンスは自分も統計学を身に着けたい、そのためにまず数学の基礎を学ばなければならないと、「数学を学ばせてほしい」と願い出たのです。結果は、前回の最後に記した通りです。

Now you were so busy,
May believe me
Dear Sir
Ever your faithful servant
Florence Nightingale

J. S. Mill Esq. M.P.

フローレンスがジョン・スチュワート・ミルに送った長い手紙の最後の部分。彼女は英・仏・独・伊の4か国語で手紙を書いています。

続 く

祝！柿生小学校創立 150 周年

2023年11月18日、柿生小学校創立150周年記念式典が開かれます。この機会に柿生小学校の辿った変遷を手短かに辿ってみましょう。

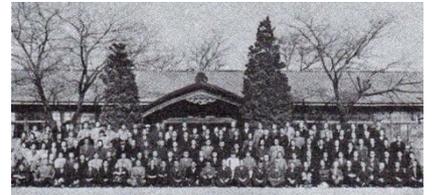
柿生小学校という校名が誕生したのは、戦後の昭和22年(1947年)です。150年前、明治6年(1873年)から8年(1875年)にかけて、柿生地域には、下麻生学舎、片平学舎、岡登学舎(岡上学舎)、黒川学校そして上麻生学舎の五つの学校が誕生しました。この5つの学校のうち、下麻生学舎を除く、4校が柿生小学校の母体となったと考えてください。下麻生学舎は、東柿生小学校として分離独立したのです。柿生小学校の前身は上麻生学舎だと狭く考えないでください。上麻生学舎は5校の中では、創立は最も遅く、黒川と並んで1村単独の学校だったため、下麻生学舎や片平学舎に比べ、当初は学校規模も小さかったのです。

当時初等教育は4年制で、希望者はさらに4年間の高等小学校に行くことになっていましたが、高等小学校への入学希望が増えてくるのは明治30年代に入ってからでした。柿生地域では、明治32年(1899年)に高等柿岡小学校が開校し、3年後の明治35年(1902年)に、現在の柿生中学校の運動場のところに、高等義胤小学校が誕生したのです。明治40年の法令で、明治41年(1908年)から義務教育が6年間に延長となり、坂の上の高等小学校は、尋常高等義胤小学校と名を変え、小学5,6年生と高等科の1,2年生を抱え、上麻生小学校は実質的に分教室となったのです。下麻生、片平等4つの小学校も、4年生までの分教場となり、5年生からは全員坂の上の学校に通ったのです。

戦後、昭和22年(1947年)、学制改革によって、高等小学校は廃止され、3年制の中学校が義務教育校として誕生します。柿生中学校の誕生です。同時に柿生小学校という校名もこの時に誕生したのです。そうなのです。柿生小学校も柿生中学校も共に尋常高等義胤小学校の後身なのです。義務教育4年制時代の高等科1,2年生、同じく6年制時代の5,6年生は柿生小学校の、同様に明治40年までの高等科の3,4年生と以後の高等科1,2年生は柿生中学校の先達なのです。

新制柿生中学校が、当初柿生小学校の校舎の一部を借りて開校したのは、ある意味自然でした。そして柿生小学校は、柿生中学校に校地を譲る形で、現在地に移転しました。

昭和34年(1959年)5月15日、坂の上の校舎とのお別れ式を行って、この日に現在地に引っ越したのです。あの日から64年、柿生小学校は創立150周年を迎えました。



坂の上の校舎とのお別れ会



柿生小学校新校舎全景

柿生郷土史料館催物案内 【参加自由、入場無料】

◎開館日：11月5・12・19日(毎日曜日) 12月9・16日(毎土曜日)

◎開館時間：午前10時～午後3時

第21回特別展示 柿生隧道の建設

期間：8月12日(土)～12月16日(土)

会場：柿生郷土史料館特別展示室

かつて、真福寺から柿生中学校脇を通過して上麻生に抜ける道には、柿生隧道と命名されたトンネルがありました。長さは60.1m、当時は川崎市で唯一でした。

完成は1951年(昭和26年)9月。1978年(昭和53年)に取り壊され、現在のような切り通しになりました。

トンネルの建設は、特に柿生中学校へ通学や、用事で柿生駅や役所などに用のある、真福寺や王禅寺の人々にとって、長年の願いでした。トンネル建設の地元負担の大半は、真福寺が中心となって支出しています。祝賀行事の写真はそんな真福寺の皆さんの喜びの様子を、見事に写し取っています。

土木工事用の大型機材のない時代に、どのようにトンネルを掘り、工事を進めたのか。地元の先輩たちが今に残してくれた写真を見ながら、皆で想像してみましょう。



【予告】第89回 カルチャーセミナー
川崎の地名 ～麻生区とその周辺を中心に～

日時：11月12日(日)

13時30分～15時30分

講師：菊地恒雄氏(日本地名研究所研究員)